

多和田真淳* 琉球植物見聞録 (八)

Shinjun TAWADA : Observations of Ryukyuan Plants (8)

247 アレチギシギシ *Rumex conglomeratus* Murr.

沖縄には従来、ギシギシ、ナガバギシギシ、コギシギシと一種ギシギシに似て蒴花粉の白色を帯びた(ギシギシは黄色)ものが知られていたが、今度アレチギシギシが帰化していることが分った。那覇港近く、小禄高校東側の埋立地で平田義浩氏によって発見された。

248 ダイコンモドキ (nov.) *Sinapis incana* L.

ダイコンモドキは沖縄本島中部の北谷村(チャタン村)の米軍用地で平田義浩氏が発見したナタネ科の越年草である。葉は厚くてざらつき一見ダイコンを見る感じであるが、花は黄色で菜の花を見る感じである。花茎は40糎ぐらいまでのび、青白毛が密生、上葉はだんだん小さくなり頂裂片のみになる。下葉は地にしき特に頂裂片が大きく、側裂片は立琴形で後方に反るのが特徴である。地中海地方の原産であるが中南カリフォルニア辺でも晩春から夏の普通の雑草のようである。

249 ホコバガラシ (nov.) *Sisymbrium loeselii* L.

2年前に那覇市小禄高校の高良拓夫氏が那覇港付近で採集した1年草で高さ50cm以上になり、葉の頂片は鋭とがり、側裂片は立琴形、花は黄色、本種はその後見かけないので定着しなかったと思われる。

250 オランダビユ *Psoralea corylifolia* L.

49年11月13日、那覇港近くの小禄高校東側埋立地で稚苗を掘りとり栽培したら50cmぐらいにのび2月上旬から開花した。

251 オカミズオジギソウ (nov.) *Neptunia triquetra* BENTH.

平田義浩氏が那覇港近くの自動車試験場で発見、その後筆者は小禄高校東側埋立地で採集した。本種は本属中の他種と異なり陸産である。若い茎の横断面に稜角があり、羽片が2~6対と少ない。花は黄色、印度原産で南米に分布している。

252 ツルアズキ *Phaseolus pubescens* BL.

那覇港周辺の路傍、埋立地に帰化している。栽培品の記録があるが筆者は沖縄での栽培品を見たことがない。

253 シナノクス *Pueraria chinensis* OHWI (= *P. thomsonii* BENTH.)

旧藩時代中国からもたらしただろうと大井次三郎博士の御意見であるが、もともとだと思ふ。琉球王朝時代の薬園跡(那覇市当蔵町)、首里城、崎山御殿跡にあるのでそれとかなずかれる。

254 トゲツノクサネム (nov.) *Sesbania aculeata* PERS.

* 沖縄県那覇市崎山町1-83 1-83, Sakiyamamachi, Naha, Okinawa Pref.

茎に刺のある種類でキバナツノクサネムの名もある（この属には黄花種が多い）。前記小禄高校東側埋立地に帰化している。

255 オオニシキソウ *Euphorbia hypericifolia* L.

沖縄各地に帰化している。これに *E. maculata* L. の学名を用いるのが多いが誤っていると思う。

256 アヤニシキソウ (nov.) *Euphorbia maculata* L.

平田義浩氏が沖縄本島金武村（きんそん）屋嘉ビーチで採集したもので、オオニシキソウに比し丈低く、葉も小さく、赤斑がある。全株毛が多い。花も果実もオオニシキソウと異なる。

257 ヤノネボンテンカ (nov.) *Pavonia hastata* CAV.

最近輸入された栽培品で、南米には野生する。小低木で葉は戟形で花は白地にピンクがばけ、赤脈がある。

258 コバナミミアサガオ (nov.) *Ipomoea eriocarpa* R. BR.

印度、ジャワ、濠州の原産で広く熱帯に帰化する植物。沖縄では越年する。葉は心脚で耳形になる傾向がある。花は多数むらがつてつき小形、周辺は桃紅色、中心は濃紅色、径7 mm 内外、萼外面は粗毛密生、萼内面と花冠外面は細毛密生。那覇港近くの壺川埋立地で平田義浩氏採集。

259 キクザアサガオ *Ipomoea pes-tigridis* L.

印度、中国、マラヤ、ポリネシア、熱帯アフリカに広く分布、台湾に野生している。那覇港近くの埋立地（国場川沿）で平田義浩氏採集。

260 ヤブチョロギ（長田武正：日本帰化植物図鑑 p. 74）*Stachys arvensis* L.

沖縄本島中城村字伊舎堂（いしゃどう）で平田義浩氏採集。

261 フウリンホトツキ（長田武正：日本帰化植物図鑑 p. 62）*Physalis pendula* RYDB.

49年10月18日、那覇港近くの壺川埋立地で採集。

262 イラブナスビ (nov.) *Solanum trilobatum* L.

宮古群島中の伊良部島の海岸に生育する。伏臥性の有刺小低木で花は紫白色、果実は赤熟する。印度、セイロン、マレー半島に産することは知られていた。本種をテンヂクナスビに当てるのは誤りである。（写真1）

263 ヤナギバルイラソウ (nov.) *Ruellia Brittoniana* LEONARD

沖縄本島中部、沖縄市



写真1 イラブナスビ *Solanum trilobatum* L.

子供の国付近の路傍で平田義浩氏採集。メキシコ原産の低木状草本で、葉はヤナギバで花は紫色で美しい。北アメリカの熱帯へ帰化しているようである。ペーレーはルリルエリヤ（コーナー・渡辺清彦：図説熱帯植物集成 p. 829）とは区別しているが、真偽不明。

264 **ニオイグサ** *Hedyotis uncinella* HOOK. et ARN.

沖縄本島北部本部町字新里を中心に生育しているが、台湾では従来知られていた。山崎敬博士の鑑定で判明した。印度の原産である。

265 **キバナタカサブロウ**（長田武正：日本帰化植物図鑑 p. 28）*Guizotia abyssinica* L.

那覇港近くの小椋高校東側埋立地で平田義浩氏採集。

266 **Farfugium japonicum** KITAMURA f. *luteofuscum* TAWADA, f. nov.

Flora luteofusca.

Nom. Jap. Ukon-tsuwabuki, nov.

Hab. : Ryukyu : Nettai-Shokubutsuen, Naha-city in Okinawa, leg. Y. TAKUSHI (1970. 12. 6), type in Herbarium of University of the Ryukyu.

ウコンツワブキ 那覇市首里末吉町、那覇市熱帯植物園で沖縄県庁林務課の沢岷安喜氏が発見した新品種で、花は普通品の黄色に対して、しぶいウコン色である。

267 **ホコガタギク** (nov.) *Wedelia*

Lundii DC.

47年12月、那覇市首里鳥堀町の路傍で発見した多年生の雑草で、地下茎によってしきりに繁殖する。図の上では「長田武正：日本帰化植物図鑑 p. 12」のキンバイタウコギを見る感じであるが、全体剛直でざらつき、葉は明かに3脈があり、花や果実はハマグルマ属の特徴がある。本属で直立するのは少ない、南米の原産である。（写真2）

268 **Allium amamanum** TAWADA,

sp. nov.

Scapo 19-44 cm longo tereti rigido ca. 2 mm diametro. Folia plana 12-23 mm longa 2-5 mm lata. Bulbus longiovoideo-formis melanochlaenus 1.5-3 cm longus. Pedunculus purpureiviridis 0.7-1 cm longus. Corolla purpurata petala cymbiforma 6 mm longa 3 mm lata. Stamina et pistilla

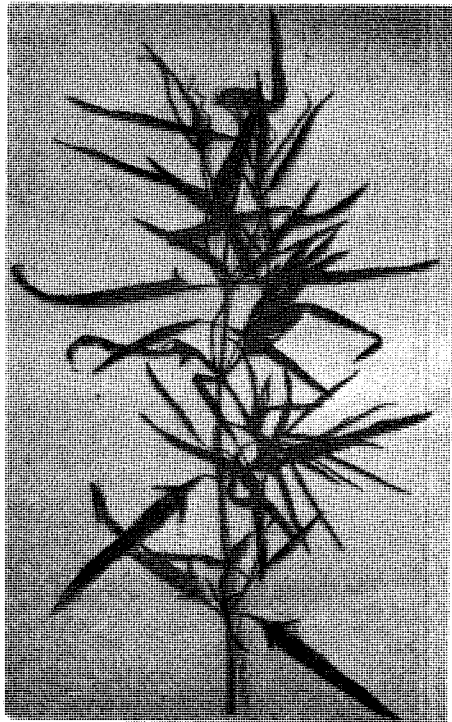


写真2 ホコガタギク *Wedelia Lundii* DC.

purpurata exserta ex petala.

Nom. Jap. Amami-yamara-kkyo, nov.

Hab. : Ryukyu : Ayamaru-misaki in Amami-Oshima, leg. K. KAMEI (1974. 11. 28) type in Herbarium of University of the Ryukyu.

アマミヤマラッキョウ 奄美大島笠利村アヤマル岬で今から20年前に筆者が採集したのが東京の科学博物館に収蔵されている(それにはヤマラッキョウの名がついている)。本種は葉がニラのように扁平で充実し、冬も枯れず、花茎は充実して強剛、雄蕊の根もとに全く付属体の見られない新しいものである。種子はよく発芽する。今回筆者の無理な願いを聞きとどけ開花した立派な生植物を採集して下さった名瀬市の郷土研究者、亀井勝信氏に深謝する次第である。(写真3)



写真3 アマミヤマラッキョウ
Allium amamianum TAWADA, sp. nov.

269 **サオトメシヨウ** (早乙女蕉) nov. (named by Y. KUDAKA) *Musa ornata* ROXB.

沖縄にはごく最近輸入されている。葉裏の中肋は帯赤色。花軸、花叢ともに直立上向、花軸は無毛、仏炎包は藍赤色で美しい。早乙女蕉は歌人久夕照氏の命名である。西南アジアの原産。

270 **タイリンゲットウ** *Alpinia uraiensis* HAYATA

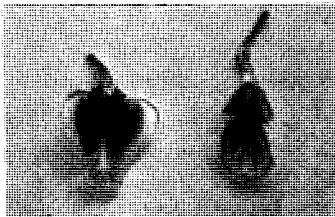


写真4 *Alpinia uraiensis* HAYATA
タイリンゲットウの唇弁を展開
左、右はゲットウの唇弁を展開。

花が咲かないとゲットウにまぎらわしい。2m以上の高さになる。総花梗はゲットウにくらべて太く、暗赤色で粗毛におおわれ、つぼみの時は下垂するが、開花するにしたがい横向けに起き上る。結実にともしない蛇曲する。唇弁は他種と異なり広三角状で先端2又し、長径(三角形の高さ)5cm、横径(三角形の底辺)5.5cmぐらいいる。南北大東島いたる所に生えているが、サトウキビの結束用として台湾から移入したものだといわれている。(写真4)